



にほんまつ

平成31年2月26日

No.13

2月の校長講話 「感謝すること, 感謝されること」

平成31年2月20日(水)

皆さんは、イソップ物語の「アリとハト」の物語を読んだり、お話を聞いたりしたことはありますか。

私は、あのお話が大好きなのです。ここであらすじを紹介しましょう。

ある暑い日、1匹のアリが水を飲みに小川のほとりに行きました。その時強い風が吹いて、アリはドボンと流れに落ちてしまいました。木の上のハトはこれを見て、『かわいそうに、アリさん葉っぱをあげるからそれに乗るといいわ。』と、木の葉を一枚水に落としてやりました。アリは木の葉にとりついて、木の葉と一緒に岸にたどり付くことができました。アリはハトに『ありがとう。ハトさんこの恩はけっして忘れないよ。』と、心から感謝しました。

次の日、昨日のハトがまた木の上にとまっていた。そこにそうっと狩人が近づいて、鉄砲で打とうとしました。昨日のアリはこれを見て、これは大変と狩人の足にガブリとかみつきました。狩人は『痛い!』と思った瞬間、ねらいがくるって、『ドカン!』と空を打ったのです。ハトは驚いて飛び立ち逃げていきました。アリは、ああよかった、ハトさんさようなら、お元気でね・・・と喜び勇んで巣に帰りました。

というお話です。

このお話の中で、一番皆さんの心を打つことは何でしょう。そう、ハトは何のつながりもない小さなアリの苦しみを、すぐ救ってあげた、優しい心、美しい心、この心に感謝して、アリが恩返しをしたということですね。けれどもハトは、アリが救ってくれたかどうか、よくわからなかったと思うのです。けれども、アリは「ああよかった。」と喜んで巣に帰りました。このアリの気持ちも立派だと思います。

世の中の人みんなが、このような優しく、美しい心で生活したら、どんなに美しい世の中ができることでしょうか。どうか皆さんも感謝し、感謝されるこのような世の中をつくっていく人になってください。

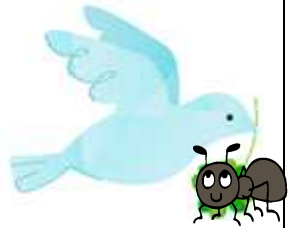
結びに、私の好きなことわざを一つ紹介したいと思います。

「情けは人のためならず」です。これは、人に対して情け、思いやりを掛けておけば、巡り巡って結果として自分にも良い報いが返ってくるという意味のことわざです。

誰かに親切にしてあげると得をするのは当然その相手ですが、それだけではなく、それが原因で自分もよい思いができる。だから人に情けをかけるのは人のためだけではなく自分のためでもあるのだよ、ということですね。

ただ実際には、自分が誰かにやってあげたことに対して、みんながみんな、何かを返してくれるとはかぎりません。せっかく助けてあげたのに、お礼の一つもされなかったら、「情けは人の為ならずなんてウソだ」と考えたくなるかもしれません。けれど、このことわざの深いところは、「巡り巡って」、つまり思いもよらないところから自分にかえってくるというところなんです。何かの機会に思い出してくれたらうれしいです。

これで、校長先生のお話を終わりにします。



← 左の写真は、児童総会の最後に、6年生から5年生にバトンが引き継がれた場面です。

今年度も残すところ、後わずかとなりました。

子どもたちと一緒に、しっかりこの一年のまとめをしていきたいと思ひます。